年次報告書

manazashi annual report 2019

2019

NPO法人子どもへのまなざし

Vision

子どもを真ん中に考える社会へ

Mission

「子どもが主人公の居場所」を創り続けよう！
子どもがいるからつながる「人の輪」を広げよう！

To 2020

「くう・ねる・あそぶ」 今、あそびの価値を発信する！

2019年は「子どもの権利条約」が国連で採択されて30周年の節目の年でした。

「子どもの権利条約」とは、18歳未満の児童（子ども）を「権利を持つ主体」と位置づけ、大人と同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定められています。

その中でも「あそぶ権利」が、どんどん後回しになっているのではないかと感じます。

2018年3月、東京都目黒区で5才の女児が父親の虐待によって死亡し、大きな社会問題となりました。死亡した幼女はノートに「…もうおねがいだからゆるしてください…これまでどれくらいあほみたいにあそんだか。あそぶってあほみたいだから、もうぜったいやらないからね。ぜったいやくそくします…」と書き残しています。父親は「しつけ・教育」と称して、早朝からひらがなの練習を強制し、その約束が守れないと折檻・虐待していたと報道されています。

「あそび」は子どもにとっていきることそのものです。『子ども時代』を大人が良かれと将来役に立つことを覚えさせることで埋め尽くしていいはずがありません。すべての子どもの「あそぶ権利」が保障される社会にしていくために、私たち大人のあり方が問われているのではないでしょうか。

世界中で大流行となっている「新型コロナウィルス」は、子どもたちの仲間と過ごす日常を奪ってしまいました。緊急事態下での大人の不安や苛立ちは、そのまま子どもに伝わります。失業や倒産など経済の混乱も、いよいよ現実のものとなってきました。次々に起こってくる大人たちの問題を前に、うっかりすると子どもたちの声はかき消されてしまいます。

進学・進級のタイミングや、学校生活のリズムが普段と変わっている今、子どもたちは何を感じているのでしょうか？言葉にできない不安な気持ちを一人で抱え込んでいないかしら…と心配です。
子育ては決してひとりではできません。

こんな今だからこそ、子どもを真ん中に繋がりたい。そして「子どもが主人公の居場所」をたくさんの皆さんと力を合わせて創り続けていきたいと強く思っています。

2020年度も、「プレーパークなかだの森であそぼう！」をはじめ様々な事業を通して、子どもにとってのあそびの価値を発信していくことを継続していきます。

子どもが評価されずに、安心してありのままの自分でいられる『居場所』の意義や、その中で「やってみたいこと」に夢中に取り組む子どもの姿を発信することが、「子ども時代を保障する社会」とはどういうことなのかを大人が真剣に考えることにつながり、「子どもを真ん中に考える社会へ」の第一歩となると考えます。

NPO法人 子どもへのまなざし

【住所】〒191-0055　東京都日野市西平山4-18-12
【TEL】042-843-1282（月～木／10時～17時）
【E-mail】info@manazashi2009.sakura.ne.jp
【Web】http://www.manazashi2009.sakura.ne.jp/
https://www.facebook.com/NPOmanazashi/

2019年度を振り返って

世界中を騒がしている新型コロナウィルス。
未知のものに大人の不安も大きくなる中で3月からの小・中・高等学校の一斉休校が始まりました。
「当団体の活動をどうしていくか?」
誰もが先の見通しが持てない中で、年度末に予定していた理事会開催日だけでは到底時間が足りず、オンラインで臨時理事会を招集して幾度となく話し合いを重ねることになりました。

これまでプレーパーク「なかだの森であそぼう!」、そして野外保育「まめのめ」はイベントではなく「子どもが主人公の居場所」と位置付けて開催してきました。
突然の「休校」という、子どもたちにとって日常を取り上げられた状態の今こそ開催日数を増やしたい気持ちの方が大きかったけれど、そのことで通常開催が出来なくなることを懸念して臨時開催は断念しました。
状況は刻々と変化。
しかしながら、簡単に閉鎖することに抵抗があり、ギリギリまで悩む日々が続きました。
一方で「散歩はしましょう!」という政府の声掛けに、路地や公園であそぶ子どもの姿は「これまでどこに居たの?」と思うくらい増えました。
また、緑地や浅川土手をマスク姿で散歩する大人も倍以上に増えたように思います。
そしてその大人たちが、公園や路地であそぶ子どもたちを温かいまなざしで見守ってくれていることを感じています。

子どもにとって「あそび」は生きることそのものです。子どもたちは、どんな状況にあってもあそびます。
家の中に籠っていても、その中で工夫してあそびを見つけていることでしょう。
でも、子どもたちのパワーをお母さんひとりで受け止めているとしたら…考えただけで悲鳴が聞こえてきそうです。
子育ては決して一人ではできないのです。
そして子どもには育ち合う仲間が必要です。

緊急事態で人が集えない状況であったとしても、やっぱり子育てをお母さん一人に背負わすことは間違っていると思います。
この状況下でも、医療関係者をはじめ様々なライフラインに携わっているみなさんは最前線で頑張っています。そして、子育て相談機関や学童・保育園などの預かり保育もその機能を維持してくれています。

私たちは「子どもの居場所」を創り続けてきました。緊急事態だからこそ、私たちにできることがあるはずです。
状況にあわせて活動を変化させながら、たくさんの人々とのつながりの中で、この緊急事態を乗り越えていきたいと思います。

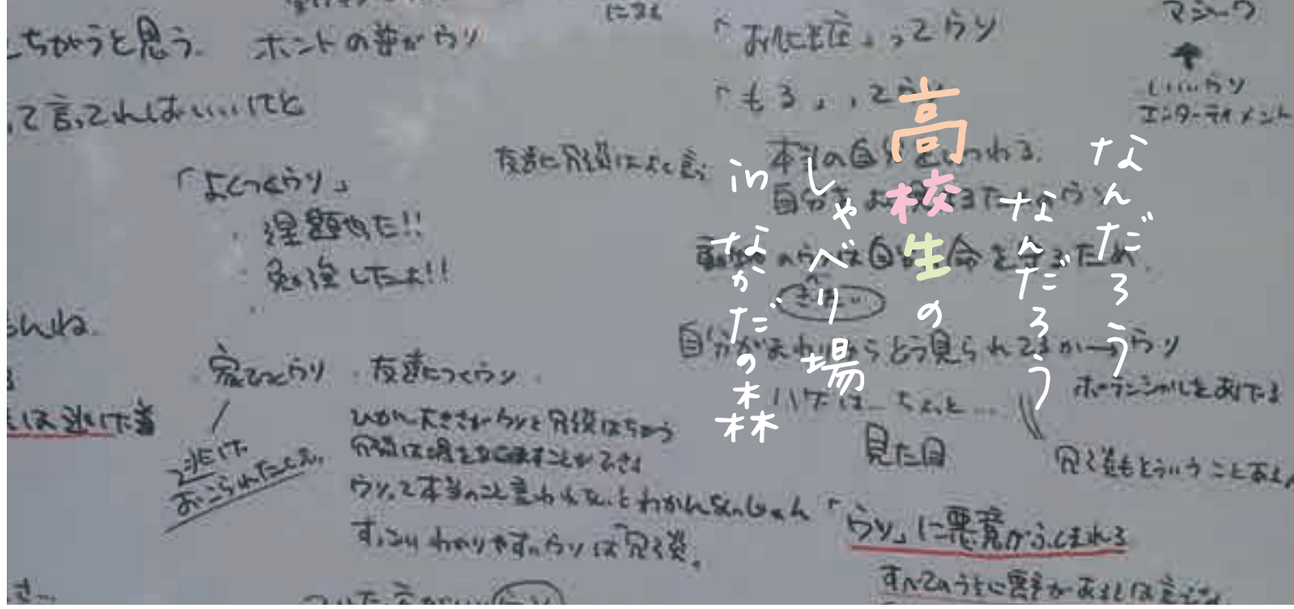
そして、この事態が収束したら、改めて集い「よく頑張ったね」と労わり合いたいと思っています。

代表　中川ひろみ

index

2019年度をふり返って…　2
高校生のしゃべり場「なんだろう なんだろう」…　4
写真で振り返る まなざしの一年…　8
まなざしの事業一覧…　10
なかだの森であそぼう…　12
野外保育「まめのめ」が大切にしていること…　14
あそべ!子どもたち事業…　16
子どもの育ちを社会で支える学習会の開催及び講師派遣事業…　18
西平山古民家プロジェクト（人の輪事業）…　20
200mオンライン対談（協働事業）…　22
仲田の森蚕糸公園事清掃管理事業…　24
情報発信事業…　25
2019年度ご支援いただいた皆さま…　26
決算報告…　28
Difference gives us something wonderful…　30

過去の事業報告書（PDF版）はこちらからご覧いただけます。



新型コロナウィルス感染拡大防止のため「緊急事態宣言」が発令された5月。いつもなら学校や部活で忙しく、なかなか会えない高校生も「なかだの森」に顔を見せてくれてゆったりした時間を過ごしました。そんな時だからこそ、一人ひとりの今の気持ちや考えを聴きたいと思い、「高校生のしゃべり場」を開いてみることにしました。全3回の内容はどれも深く、そして幅広く…ぜひ多くの大人に高校生の「今」を知ってもらいたくなり、参加した高校生たちに承諾をいただいて、このような形でまとめることにしました。

誰が話したか分からないようにイラストにしましたが、すべて、高校生たちが互いに真剣に語り、聴き合った内容です。

皆さんは高校生の頃、どんなことを考えていましたか？

そして、皆さんにも、ぜひ「友だちってなんだろう？」「ふつうってなんだろう？」一緒に考えながら読んでいただきたいです。

場所　なかだの森であそぼう！内の木立の中

第1回目　5月15日（金）14時半～16時半
第2回目　5月22日（金）16時半～18時半
第3回目　5月29日（金）17時～19時

一緒に話した大人　たもつ・ひろみん

しゃべり場のルールル

- 自分がここで話したいと思ったことを話してね。言いたくないことは、言わなくていいよ。
- 自分が話すだけでなく、他の人の話もしっかり聴こう！相づちはOK。
  意見が違っても否定はしないよ。
- 今の気持ちや考えを話そう。でも気持ちや考えは変化するもの。
  だから「〇〇がこんなこと言ってたよ」と他の場所で言うのはナシ！ココだけの話にしよう。
- 話す人はカラーボールを持ってる人。誰かだけがず～っと話してるんじゃつまらないよね。
  カラーボールをどんどん回していくよ。
- ここでは、本音で話してほしいなぁ。
- 高校生ならだれでも参加できるよ。途中参加、退出アリ！
  でも、話を中断しないように気を付けようね。

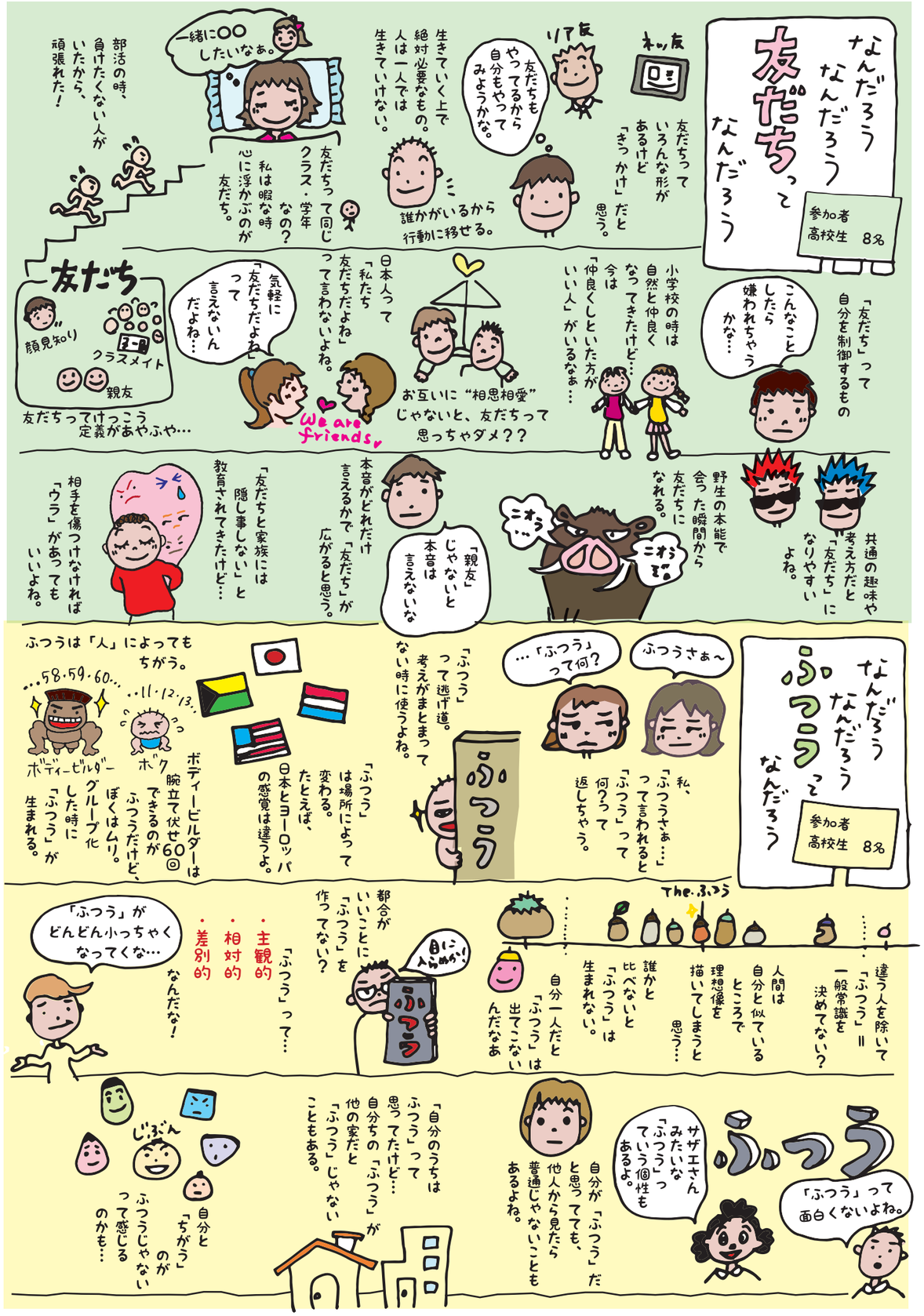
用意したもの

マジック　名札用ガムテープ　ホワイトボード
カラーボール　おやつ色々　ルールを書いた紙
絵本「なんだろう　なんだろう」と絵本のコピー　ボイスレコーダー

参考にした本

ヨシタケシンスケ作『なんだろう　なんだろう』／光村図書出版

こどもとおとなと、そのあいだのひとたちに送る
「たとえばこんな考え方、どうでしょう」の本です。
今回、高校生のしゃべり場と記事のデザインで参考にさせていただきました。
今回の企画をとても喜んでくださり、掲載をご快諾くださった
ヨシタケシンスケ先生と光村図書出版の皆さま、ありがとうございました！



なんだろう なんだろう ネット って なんだろう

参加者 高校生 7名

ぼくは ネット恐怖症 なんだ…

ゲームの中で意見したら「それ、違うでしょ」って攻撃されて、心が折れて…それから恐怖症なんだ。

ネット上の暴言は エグいよな…

最近のキッズは ネットだからって なんでも言いまくり！

わたしはツイッターで アイドル達と 別の自分として やりとりしてる。

みんな匿名で、何を言っても 自分の生活に 関わることがないんだって 分かったんだ。

誰かを叩きたい人 ばかりが 集まってる。

相手が見えないから 言いたい放題 面と向かって 言えないんだ。

あおり運転の犯人にされたり…

日韓問題で炎上して謝罪したアニメもあったよ。

コロナの自粛警察も だよね。

でも…ぼくもオンラインゲームでは暴言とばしながらやっている。目の前にいたら できないことができちゃう。

だけど、ぼくは ゲーム好き。ネッ友に会いたい！

ネットは時間が効率的に使えるよね。

学校に行けない子は ネットが必要だよね。

でもさ、外であそぶのは すっごい大事。

いろんな人に直接会う。

友だちと直接意見を交わす。

社会性が育まれる。そういう能力があれば ネットともうまく付き合えるんじゃない？

なんだろう なんだろう がっこう って なんだろう

参加者 高校生 6名

3class（小）

中学校に入って人数が増えて、考え方が広がった。

いろんな価値観を知ることができた。

話してない人、名前も知らない人がまだたくさんいる。

7class（中）

高校はもっと いろんな人がいそう！

・友だち関係が 広がるかも！

・みんないろんな所から 来るから…

話、合うかな？

・行動範囲も 広がりそう！

8class（高）

突然のコロナ…

でも…

・人学式もなかったよ。自分は中学生でもないけど高校生でもない…

・まだ一度も制服に袖を通してないのに 夏服が届いちゃったよ

・コロナで部活ないかも。試合もないらしいし。

・一度も会ったことがない人とクラスのLINEで繋がっても何を話したら良いのかな…

小学校の先生は マジメ。担任は自分たちと距離が近かったよね。

中学の先生は 個性豊かだったよ。

委員会や部活、教科でも いろんな先生と関わるから 飽きなかったなぁ。

高校の先生の方が 優しそう！

先生と自分たちとの年齢も近くなってくるよね。

ぼくは小学校の時、

将来は「ふつう」がいいです！

って言ったら、「もっとちゃんと答えなさい！」って言われた。

先生の価値観で決められたくない！

先生もいろいろだよね。

共感してくれる先生もいれば、

寄き通す先生もいる。

先生によって態度を変える人もいて イライラしたよ。

先生の機嫌の良し悪しで態度が変わるのが理不尽！

でも、歯向かうと3倍になって返ってくる。

3年生は「お手本」

1年生のミスでも3年生の責任になる。

『連帯責任』って大っ嫌い！

連帯責任

3年生

冗談が通じる先生、仲の良かった先生もいたよ。

「先生」と「生徒」の関係が崩れちゃうのも良くないんだと思うよ。

Teacher

Student

委員会の担当じゃない先生にブチ切れられたことがある。

何も知らないくせに！

ドッキリ

先生にドッキリ仕掛けた。やばい時もあった…

高校生が「未来」を語る

どんな将来？ どんな未来？ どんな世の中？ どんな夢？

今の社会は悪い形だと思う。若い人が増えて政治がうまくいって、社会がなんとかうまくいかないかなぁ。今の社会の悪い部分が大きくなって

分かってきたから、なんとかしてほしいなって思う。自分が何ができる、とかはないんだけど…

治せない病気が減るといいな。でも、病気が完全になくなるのは違うと思う…

環境、平和…解決案は出ているのに実行しようとしない。

「平等」って立場によって差があるから意見を出したくても出来ないんだと思う。

Peace Environment

今の社会はピラミッド。段ごとじゃないと、人とつながれない。

それぞれ個性を持ちながら、個人個人でありながら、自分を持ちながらつながって広がる社会。

発展するけど発展しすぎることへの抑制にも繋がると思う。

理想の世の中が決まっているのはつまらない！

みんながみんな笑ってる。精神的な病いにならず適度な頑張りで。

アンパンマンが空を飛んでるみたいな明るい未来。

自然が残っててほしいじゃん。ぜんぶ新宿みたいじゃ怖いじゃん。

外で遊ぶことができなかったらなんかつまんなくない？

紛争、貧困…そこで暮らす人たち、紛争してる人たちにだっていろんな考えがあるはず。

架空映像のようにリアルタイムで語り合い交流ができる技術の進歩が進むと良いと思う。

今の自分の環境に満足している。だから、この環境がずっと続いてほしい。

これになりたい、はないけど楽しい仕事をしたい。お金も大事。周りも楽しい、と思う仕事。この人といるだけで楽しいなっていう人になりたい。

しゃべり場を終えて…大人が感じたこと。

面白かったぁ！

高校生たちって考えてるなぁ。自分が高校生の時って、あんなに言葉にできたかなぁ。

高校生たちも、面白がってくれてるのが伝わってきたのが嬉しかった。本音を語ってくれているんだという空気、真剣さがあった。もっと嫌がるかな…って思ってた。

休校期間中に「しゃべり場」に取り組んだことで、「森」というあそび場から、「居場所」に変わったんじゃないかな、と感じた。（たもつ）

居させてもらってありがとう！

聞かせてもらう役割で、貴重な時間を共に過ごさせてもらいました。

高校1年生は、コロナの影響で入学式もないまま、「中学生じゃないけど、高校生でもないんだよな…」そんなつぶやきが聞こえる最中での「しゃべり場」の取り組みでした。

本当なら部活に塾にと忙しい年代の高校生が暇を持て余し、「なかだの森」に集い、今の自分、そして仲間の気持ちや想いを語り合いたいと思ってくれたからこそ、実現した時間でした。

高校生が語るひと言ひと言をホワイトボードに記録しながら、感心したり、納得させられたり…

SNSやネットが当たり前の時代の、私が知らない「高校生の今」を教えてもらったような気持ちでした。（ひろみん）

1. 川がきで「キャンプファイヤー」に点火するのは一番大きい3年生
みんなの気持ちがひとつになって
2. つかまえた魚を観察中
3. 山歩きの途中で出会った燃えるような紅葉
4. 体ぜんぶを使ってあそぶ子どもたち
5. 自然をまるごとフィールドに、とことんあそぶ日常を積み重ねる
それが野外保育「まめのめ」
6. 田んぼの畦を並んで歩く どこか懐かしい風景

1. 生き物探しはいつだって真剣勝負
2. 雨の日のなかだの森は、大きなブルーシートの屋根の下で
いつもより、互いの距離がギュッと近くなります
3. 初挑戦の「出張プレーパーク」川であそぶ姿をあたりまえにしたい
4. 試行錯誤しながら木登りに挑戦中
5. あそび心にスイッチオン！
6. バケツで大はしゃぎ「汚したっていいじゃない！」

今、取り戻したい3つの 「間」ー時間・空間・仲間 ー

今を生きる子どもたちにとって本当に大切なことをあなたと一緒に考え続けたい。
「子どもが真ん中の社会」を目指していく。子どもへのまなざしは以下の活動に取り組んでいます。

子どもが主人公の居場所

プレーパーク「なかだの森であそぼう！」

子どもにとってあそびは生きることそのもの！

プレーパークとは、子ども自身が「やってみたい！」と思うことを実現していくあそび場です。豊かな子ども時代を過ごすためには子どもたちが日常的に「やってみたい！」に挑戦できる場を私たち大人が創り出す必要があります。

ととことん仲間と、ととことんあそぶ

野外保育「まめのめ」

子どもの「今」と共に歩む

1歳児～就学前までの子どもたちが共に過ごす保育の場です。地域にある森や川、丘を中心に季節や天気で日々変わっていく自然をまるごとフィールドにして仲間ととことんあそぶ日常を重ねています。

子ども時代のあそびを保障する

あそべ！子どもたち！事業

日常の「あそび」を広げるきっかけに

子ども時代の「あそび」を保障するための取り組み「あそべ！子どもたち！」事業。「川であそぼう！ちびっこ団・がきんちょ団」「飛び出せ！冒険隊」の取り組みを通して、山や川であそぶことを特別な体験ではなく、「日常のあそび」を広げるきっかけとして開催しています。

子どもの育ちを社会で支える

講演会・学習会を開催する／講師を派遣する

子育て真っ最中の人と考え続ける

人との関係が希薄な時代だからこそ、共に学び合うことを大切にしたい。「子どもにとって本当に大切なこと」を子育て中の人や子どもの育ちに関わる人と学びたいと講演会・学習会の開催、講師派遣の取り組みを行っています。

子どもがいるからつながる

地域の人と「人の輪」をつなげていく

大切なこの街で安心できる人間関係を築く

子育ては決してひとりではできません。人と関わるのはめんどくさいことが多いですが、それを一歩超えて、人と関わることを通して、楽しいこと、辛いこと、嬉しいこと、悲しいことも共に分かち合いながら、私たち大人が安心できる人間関係を築き、人の中でくつろぐ感覚を取り戻したいと思います。

大きな家族のように共に子育て

外遊び自主保育サークル「はだかんぼう」の支援

大人も子どもも一緒に育ち合える場に

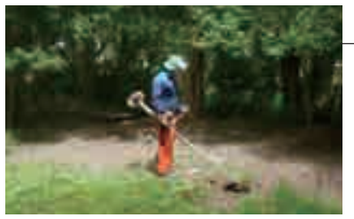
「はだかんぼう」は緑や自然の中で子育ち、親育ちをしている自主運営の親子サークルです。仲田の森蚕糸公園を中心に自然環境の豊かな場所で季節を感じながら活動しています。その場にいる大人は子どもたちみんなの親のように、子どもの今と子どものあそびの世界を大切に、子どもたちの間に生まれるいろいろな関わりを見守っています。

共に地域を創る

協働する

団体の枠を超えて、子どもが育つ環境づくりに取り組む

「子どもたちにとって本当に大切なことを第一に考える社会」を実現するためには、互いの違いを認め合い、支え合う関係づくりが必要です。同じ目的を持つ、主に日野市内の他団体や個人と協働しています。



仲田の森蚕糸公園を整備する

地域のあそび場を自分たちの手で

団体設立当初より、自分たちの居場所は自分たちの手で整備しようと除草や清掃を自主的に行っていました。平成25年4月より「仲田の森蚕糸公園」の公園清掃など作業に関して日野市より業務委託を受けています。

情報発信する

一人でも多くの人と考え続ける

「今を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと」をより多くの人と考えるため情報発信しています。

子どもが主人公の居場所の設置・運営事業
プレーパーク「なかだの森であそぼう！」

子どもたちが「やってみたい！」と思うこと全てが「あそび」です。

「やってみたい！」それは未知なることへの挑戦なので、失敗はつきもの。

〝危なっかしい〟〝危ない〟〝うるさい〟と大人の都合であそびを制限してしまうと、子どもが自ら育とうとする力を奪ってしまうことになるのです。

「あそび」の中での子ども同士のケンカや失敗が大切だと思っていても、「迷惑をかけないように」と周りの目を気にして、子どもに口うるさく言わなくてはならない…そんなへとへとな毎日を送っているお母さんにたくさん出会ってきました。

豊かな子ども時代を過ごすためには、子どもたちが日常的に「やってみたい」ことに挑戦できる場を私たち大人が創りだす必要があります。

子育ては一人ではできません。

子どもも、そして親だって、たくさんの温かいまなざしの中で育ちあうことが、今、とても大切だと考えています。

■学校の枠を超えて…

学校の枠を超えて「なかだの森」で知り合った子ども同士が遊ぶ姿をよく見るようになった。学校だけの友だち関係から解放される場でありたいと、それぞれをつなぐ関わりをしてきたことが実っていると感じる。

また、常連の親たちがまるでスタッフのように訪れる人を包み込む雰囲気になってきている。それぞれが多様な人同士を柔らかくつないでくれているからこそ、居心地のよい場となっているのだと感じる。

■あそび場エリアの引っ越しをしました

桑ハウスの改修工事が始まり、日野市子育て課に設置していただいた物置に活動備品のすべてを移動した。同時に、あそび場のレイアウトもがらりと変化させた。今までより開放的になり、なかだの森全体を広く活用でき、一体感も感じられる場となった。一方で、大きい子どもたちが大人の目を逃れ集う場所がなくなってしまったので、気軽に立ち寄っておしゃべりできる居場所となるよう、さらに工夫を重ねていく。

【2019年度実績】
年間実施回数　63回（大型台風により1回中止）／ 延べ人数　7,122名

未来への不安がゼロになるわけではないけれど悩んでいるのは私一人じゃない

金曜の午前、「学校に行きたくない気持ち」の子どもたちが当たり前のように来るようになっています。それぞれみんな違うけれど、心の中に隠している傷つきを感じることもあります。保護者の心配な気持ちに寄り添いながら、本人がどうしていきたいのかを非難されることなくゆっくり考えることができる場でありたいと思います。

「大人は仕事を辞めても良いのに、なんで子どもは学校辞めちゃいけないの？」

という夫の言葉にはっとさせられたのは、娘の不登校について夜な夜な話し合っていた時だった。娘の不登校が始まったのは、小学2年生の1月。年末ころから、通っていたクラスの学級運営が難しくなったようで、いじめが頻発し、不登校の子が数人でており、補助教員が入っていると耳にしていた。

「学校を休む」「お腹が痛い」と言うようになり、「学校に行きたくない」と泣かれ「眠れない」と話すため、夫とも相談して休ませることにした。近所には同級生が数人住んでいて、そこから見えるからと自室のカーテンも娘が閉め切っていた。本来は、明るくて元気な娘なので、安易に休みたいといっているわけではないと感じた。

不登校が始まった当初は、本人が心落ち着く事を共にしたり、学校にまた戻った時に困らないよう勉強をしたりもした。

親が子どもにしてほしい事、子どものしたい事や将来への不安からこれだけはやってほしいと願う事 etc…。カリキュラムもルールもない日々。娘は激しい性格だし、私は気長な性格ではない。母子で共に過ごす時間が増えた事で、娘とたびたび衝突する。そのたびに話し合いをし、一緒に日常のルールを考え、時間の過ごし方を模索した。

他にも、学校に戻れるように、担任の先生と「通いやすい」環境を整えたり、1か月間程、母子登校をしたりもした。けれど、専門用語で「さみだれ登校」と言うらしいのだが、現在も行ったり行かなかったりが続いている。

私は「子どものため」と勝手に思い、色々工夫や努力をしたものの、二年の脳内パニックを経てグルーっと一周回った今、結局、それは私自身の中にあった「学校に行かせたい自分」との闘いで子どもの声をちゃんと聴けてなかったのではないか、と思う。

「学校は行くべき」という当たり前に思っていた価値観、常識の一つ一つを、私自身や世間全般ではなく、目の前の娘にとって本当に何が必要で大切なのか、現状と照らし合わせ、今は少しずつ吟味する日々。

本人だって不登校が社会でどう見られるか、大人の反応を見てきっと感じている。しかし、行きたい気持ちはあるけれど、行けない。そんな自分を受け入れられなければ、心は壊れてしまう。

様々な現場に足を運んで感じたのは、不登校を必ずしも皆が温かい目で見ているわけではないこと。しかし、家族が子どもを受け入れられなければ、世界に居場所はなくなってしまう。

「皆は学校に当たり前に通えても、娘にとっては苦しいかもしれない」「どこまでが甘えで、どこまでを強いて良いものなのか」境界もわからない。ここまで時代が変化すれば、合わない子も出てくるかもしれない。しかし、私が何かをしようがしまいが、子どもは学校に行く日もあるが、行かない日もあり、大人の悩みはなんのその。相変わらずそしらぬ顔で元気にやっている。

もともと我が家は自営業をしているので、コロナ禍以前から、私、夫、義理の父、娘が年中無休で在宅している。元来何をするにも「お一人様」が大好きな私。この環境には耐えられず「せめて金曜くらいは、光合成しになかだの森でも行ってきな！」と、手荒に追い出すように、娘を森へ連れていくこともある。

「楽しかった」と帰ってくる日が多いけれど「つまんなかった」と帰ってくる日もある。メンバーも天気も微妙に毎回違うし、同年代の子が毎回いるわけではないから、手持ち無沙汰に感じる日もあるだろう。

「不登校」の問題として私が感じているのは、やはり人と会う機会が少なくなること。そういった中で、娘が0歳の時から通っている「なかだの森」は、ありがたいだけど本当にありがたい存在。

幼い頃は、ずっと母子で通っていたけれど、今は弁当水筒を持たせて、一人で送り出している。

金曜日。娘は森へ。夫は仕事、祖父はデイケア。私にようやく、週に一度のお一人様時間がやってくる。そこは、私が深呼吸できる時間。けれど、そうやって送り出せるのも、絶妙な距離感で見守り声かけしてくれているスタッフさんの存在。おせっかい過ぎず互いが自由で過ごしながらも気にかけてくれる森の人たちがいるから出来ること。

正直な気持ち。もっともっと、彼女が彼女らしくのびのび出来る居場所や環境を沢山用意してあげたい。色々探してはいるものの、距離や予算本人の志向もあり意外と選択肢は少ない。

そんな中で「なかだの森」は、週1通える娘の大切な居場所になっている。

そして私自身も、偶然そこで出会う誰かに話を聞いてもらい「こんな事あって…」と悩みを笑い飛ばせる友人に出会える場所となっている。

以前、森で娘の不登校の話をすると「実は私も不登校だった」とか「実は」という話をいくつか聞いた。そういう苦しかったかもしれない過去の話を、今はさらっと話せる大人の、しゃんと立つ姿に希望を感じる。。

「学校生活を皆のように過ごせないと、何か可能性のようなものを失うのではないか」という漠然とした将来への不安はある。未来への不安がゼロになるわけではないけれど「悩んでいるのは私一人じゃない」と、どこかほっとした。

下の子の登園準備もあり、金曜は朝からドタバタで、娘を連れていくにも意外と気力が必要。だけど「エイヤー！」と気合で来た森で、いつも元気をもらっている。

（みかちゃん）

とことん仲間と、
とことんあそぶ

親子で育ち合う場の設置・運営事業「野外保育まめのめ」が大切にしていること

とことん外で とことん仲間と とことんあそぶ

街中のあちこちで子どもたちがあそび育つ姿は、すっかり見かけなくなりました。

空き地や緑地などかつて子どもたちのあそび場だった場所は「立ち入り禁止」の看板や有刺鉄線で囲われてしまいました。いつの頃からか、子どもたちの姿が街から消えてしまったかのようです。

「まめのめ」は、園舎を持たないスタイルで活動をスタートしました。毎日外と言っても、気持ちのいいお天気の日ばかりではありません。

猛暑の日も、冷たい雨の日だってあります。はじめは戸惑うこともあったけれど、今ではそれが当たり前の「まめのめ」スタイル。

室内はどうしたって大人の都合で子どもを制限せざるを得ないことが多くなります。「汚さないで」「うるさくしないで」「走ったら危ないでしょ」って―

外で思いっきりあそぶ子どもたちは、いつだって輝いています。どうやら「森のようちえん」に似ているみたいと団体登録したけれど「自然教育」はしていないかも。ただ、ただ、仲間と一日として同じことのない自然の中であそび尽くしています。

【2019年度実績】
野外保育「まめのめ」が大切にしていること
子どもの「今」と共に歩む
子どもを信じて受け入れる
親も子も、育ち合う関係づくり

開設日:2009年4月1日～
対象年齢:1歳児～就学前までの子どもたちが共に過ごしています。
＊1歳児の方は、お子さんの体力によって相談しながら入園を決めていきます。
在籍人数:42人(2019年3月末時点)
保育時間:月～金　9:00～15:00/17:00(保育園組)

子どもの「今」と共に歩む大人でいたい！

幼児期を「小学校の準備期間」と捉えません。大人の都合のよい子を求めたり、急いで大人に近づけようと要求したり、将来役に立つ何かをあれこれ教え込むのではなく、子どもたち自身が今やってみたいことに、とことん挑戦出来るように支えます。

子ども自身が「今日も自分のやってみたいことをたっぷりできた感覚＝自由感」が持てているかが指標です。大人のよかれでイベントや行事を増やすことはとても簡単です。子どもの今をしっかり見つめて、常にひとりひとりの最善を一番に考えます。迷ったら目の前の子どもの意見を聞くようにしています。挑戦には失敗がつきものです。だから絶対にケガをしないことを最優先にしていません。ケガなしで、健全に育つことはないのです。

子どもは子どもを生きています。

そして子どもにとってあそぶことは生きることです。やりたいことを夢中でできる、今しかない「子どもの時間」を仲間と共にたっぷり過ごす場でありたいと思います。

子どもを信じてありのままを受け入れる大人のまなざしに溢れる場でありたい！

子どもは本来、育つ力を持っています。子ども自身が今やってみたいことは、その子の成長にとって必要な刺激を取り入れている真っ最中なのです。

一人ひとりの力を信じて「〇〇ができるようになってほしい」というまなざしではなく、存在をまるごと受け入れる、子どもにとって絶対的な安心の居場所でありたいと思います。

一緒にあそべばケンカも起きます。大人はジャッジする役割りではなく、悲しい気持ちや悔しい気持ちを丁寧に受けとめることこそが大切です。言葉にならない気持ちに共感してもらったり、寄り添ってもらうことで、自分の存在そのものを大切にされている という心の根っこが育っていくのです。

知っておいた方がいいマナーやルールは伝えるけれど、それをいつからやるのかは本人が決めることです。大人は、出来ないことに着目するのではなく、その時をいつまでも待っているよという姿勢でありたいと思います。

親も子も育ちあう関係づくりを大切にこれからも共に…

保育サービスを提供するばかりの世の中に疑問を持っています。

そもそも、野外保育「まめのめ」のはじまりは、子育て真っ最中の親たちの「入園させたい幼稚園がない」「幼稚園にああしてほしい、こうしてほしいと言う親になりたくない」自分たちの想いの叶う保育の場を自分たちで創っちゃおう！とはじまった活動です。

子どもだけでなく、親だって安心して語り合える仲間が必要です。子育ては決してひとりでは出来ません。喜びも悲しみも分かち合える関係づくりを楽ではないけれど楽しんで重ねていきたいと思っています。

いろいろな年齢の子どもたちが一緒に過ごします。まるで兄弟のようにごちゃまぜであそびます。ごちゃまぜをひとつの色にしようとしません。みんな違うから豊かなのです。違いを認め合い仲間の中で安心して自分らしく過ごせる場であるためには、大人のあり方こそが問われているのだと思います。

子どもを真ん中に、大人も共に学びあえる場であり続けたいです。

子ども時代のあそびを保障する場の設置・運営事業

あそべ！子どもたち！事業

なぜ「あそべ！子どもたち！事業」を開催するのか？

今、子どもの体験不足が叫ばれています。どんなにたくさんの自然があっても、とことんあそぶ時間、一緒に遊ぶ仲間がいなければ、豊かな「子どもの時間」にはなりません。私たちは、山や川であそぶことを「特別な体験」ではなく、「日常のあそび」を広げるきっかけとして開催しています。

出会った子どもたちと共に…

活動を通して、子どもたちの「やってみたい」を保障することの大切さを実感しています。プログラムをがっちり決めて、それに子どもたちを当てはめるのではなく、活動で出会った子どもたちに合わせ、企画も柔軟に変化させながら活動を続けています。

「飛び出せ！冒険隊」ビギナー・マスター

あそべ！子どもたち事業の一つである「飛び出せ！冒険隊」は小3～小6までの自転車で旅をする企画です。

子どもが自分であそびに出かける範囲がどんどん狭まっていると感じます。家と学校の往復以外は、全て車で送り迎えが当たり前になっている子もいるみたい…。

ケガをしないようにと「〇〇禁止」の看板だらけの今、子どもたちは本当に自由に遊べているでしょうか？

この企画は大人があらかじめすべてを決めてしまうのではなく、子どもたち自身が「やってみたいこと」「挑戦したいこと」を出しあい、それをどうやって実現するかを相談しながら活動を組み立てていくことが特徴です。

「もうすぐ日野だ！」ビギナーB日程／八高線高架下あたり

冒険隊地図 －自転車で行けるところまで行ってみた！・ビギナー編－

2018年度から、初めての子どもたちも参加しやすいように日帰りにした「飛び出せ！ビギナー」。天候や参加した子どもたちの力量に合わせながら、行けるところまで冒険します。今回は、2019年度のコースをご紹介します。

ビギナーBコース

冒険した日	8月31日（土）
走行距離	30Km
出発地点	仲田の森蚕糸公園
ここまで行ったよ	秋川の東秋留橋

ビギナーAコース

冒険した日	7月30日（火）
走行距離	24Km
出発地点	大木島自然公園
ここまで行ったよ	八王子市役所前

ずっとつながっていける場に…

ここ数年、川であそぼう！ちびっこ団から参加を重ね、「飛び出せ！冒険隊」に参加して下さる方が増えてきました。年に数回の場ですが、この活動をとても楽しみにしてくれている子どもたち、そして、活動の理念に深く共感して下さっている皆さんの存在を感じています。

川であそぼう！ちびっこ団
7/20(土)～22(月)
年中・年長

冬をあそぼう！がきんちょ団
12/26(木)～28(土)
年長～小3

川であそぼう！がきんちょ団
8/6(火)～9(金)
年長～小3

山へ飛び出せ！たんけん隊
①10/13(日) ②11/2(土)、
③11/30(土)～12/1(日)
小3～小6

日本初のプレーリーダー天野秀昭さんは、『子どもは昔から、あぶなく、きたなく、うるさい存在だった。
変わったのは子どもではなく、それを「迷惑」と受け止める大人や社会の意識の方だ』とおっしゃっています。
今、子どもたちは自由に生きているのでしょうか。自分が主役の人生を生きているという実感を持てているのでしょうか。
私たちは、こんな時代だからこそ、「子どもにとって本当に大切なこと」は何なのかを
考え続ける大人の輪を広げていく必要があると感じています。

まなぶ

学習会の開催　及び　講師派遣事業

「子どもにとって本当に大切なこと」を子育て中の人、子どもの育ちに関わる人すべての人と学びたいと毎年無料の講演会の開催を重ねています。

二〇一九年度は星山麻木先生をお招きし、『この子は育てにくいと思っても大丈夫』を開催しました。会場は先生の言葉を一言も聞き漏らすまいという熱気とあたたかい雰囲気や言葉に涙する人たちで溢れていました。

生まれてきてくれてありがとう！
子どもに伝えたいあなたと考えたい　星山先生の言葉の数々

■私たちはみんな虹色。
ブレンド具合が異なるだけ。

■自分の中の困っていること、
人と違うことが恥ずかしいとか
ダメなことではなく
違いはすごいことで強みになる。

■違うことは強いこと。
特別支援教育は才能教育。
良いところ、ステキな所を見つけ、
応援し、励まし、待つ。
それで命が輝く。

■私たちは、もう本当に本当に
ガンバレガンバレ国民なんですね。
私たちは自分では
何もしてないと思ってるけど
ここにいるだけで十分。

■私たちはみんな、実は少数派。
全てのことが全部平均で
全部多数派に
属している人なんていない。

講演会に参加された方の感想

不安で困っていた理由が分かって楽になった。自分がそう育てられてきたように「皆と同じ」を子どもに求めていたから、少し違うと不安になり、困り怒っていたと気付いた。根本が分かったことでこれからの子育てが変わっていきそうだ。
（Y・Yさん／6、3才母）

＊

生きにくさを母親である私自身が感じて今まで生きてきましたが「違うことは強さ」という先生の言葉を聞いて、生まれつきの特長への捉え方を変えていきたい。子どもに不安を押し付けることがないようにしたいと思いました。

＊

私は学校の先生ではない立場なので、子どもたちへの合理的配慮やその子の強みを生かして居場所を創ってあげることが比較的行いやすい環境にあると思います。学校以外にも、その子がありのままで居られる地域社会づくりをしていきたいなと改めて思える2時間でした。（恵里さん）

＊

自分の子どもと自分が幸せになるヒントがたくさん詰まっていました。
私も、私の子どもも、少数派と感じることがありますが、すばらしいことと認めることが出来てないな～と気付かされる講演でした。たくさん、たくさん、自分も子どももほめてあげたいと思います。
（みどりさん／7、9才母）

【2019年度実績】
5月18日(土)　星山麻木先生講演会　「この子は育てにくいと思っても大丈夫！～生まれてきてくれてありがとうと子どもに伝えたいあなたのために～」
後援　日野市／日野市教育委員会　　参加人数　150人
8月4日(日)　大人の川あそび　参加人数　5人

ひろげる

子どもの居場所を創るには、主体的に関わる大人の存在が必要です。一人でも多くの大人が「子どもの育ち」を支えることについて考える種を撒くために、ご依頼先のフィールドに出向き、当団体の活動やそこに込めた思いをお伝えしています。

二〇一九年度は、当団体の正会員で「みんなであそぼう」代表の佐々木ふみかさんが居場所について地域の人たちと学ぶことを目的として2回連続の市民講座を企画し、代表の中川とプレーリーダのたもつが講師を務めました。

今回は、佐々木ふみかさんに講師派遣をしたきっかけや開催後の気持ちをお伺いしました。

たもつとひろみんに講師を依頼して…

■講師を依頼したきっかけは?

多摩市であそび場づくりを始めて1年。活動を続けるには、仲間が欲しいと思っていました。でも、周りのお母さんたちは「あそびは大事だけど、勉強の次にあそび」と思ってるんだなあと実感して…。

それで、仲間を増やすために講演会をしよう!と一緒に始めた相棒の方と決めていたのです。誰に来ていただこうかなっていろいろ考えていたのだけど、まなざしのメルマガ「今月のまなざし」でたもつの書いた『やっぱプレーパーク』を読んで、そうだ!やっぱりたもつがいい!と。

本当はひろみさんとたもつの対談を考えていたのです。ひろみさんは子育て中の母に向けるまなざしがとても温かいし、たもつの持っている力を講演会で引き出せる人だと思う。でも、講演会の制限などもあって、ひろみさんの講演会、その後別の日にたもつのあそび場でのワーク、の2回連続講座になりました。たもつはフィールドで一番輝くよね!って、ひろみさんとも話して。結果とても意義深くて楽しい2回の講座になりました。

私の基礎はやっぱり森。だれか講師の方をお招きするというより、私が人となりをよく知っていて、信頼していて、一番身近なプレーリーダーにお願いしたいな、という気持ちが大きかったです。

■講演会をやってみてどうだった?

実は講演会の当日はハプニングがあってバタバタで、ひろみさんと一緒に会場の設営をしたり、司会もして受付をして…(笑)だから、終わってボーゼンとする…という感じでした。

でも、本当にたもつでよかった、ひろみさんでよかった、自分が大好きな人に来てもらって、それをみんなで共感しあえて嬉しかったです。

当日の参加者は子育て中の方が多かったですが、学校での放課後の遊び場(多摩市では学校ごとに地域の方などが任意でなさっている)の方や児童館の職員や興味を持った青年も来てくれました。

みんな、あそび場ってなんとなくいいなって思っているんですよね。

同じ場で活動している仲間ではないけれど志が同じ人たちが集まって、実際に何年も活動しているたもつやひろみさんと会えて良かったなと思います。何もなかったところに種まきができたのでは。

今は少しづつ…ポツポツと仲間ができている感じです。息子の同級生からその兄弟や保護者、隣の小学校の子、もちろん、まなざしの仲間も顔を出してくれます。まだまだ困りまくっていますが、つながりが助けてくれて、しみじみありがたいと実感しています。

（佐々木ふみかさん／聞き手　松永由希子）

▲たもつの『やっぱプレーパーク』はこちらのメルマガバックナンバーで

【2019年度実績】
・多摩市永山公民館市民企画講座「子どもたちの放課後・地域の居場所を考えよう」
　1回目『みんなで話そう！』9月29日(日)　講師：中川ひろみ　／　2回目『いっしょにつくってみよう！“あそび場”』10月20日(日)　講師：たもつ(伊藤完)
・青山学院女子短期大学子ども学科にてキャリアデザインの授業の講師として登壇　12月12日(木)　講師：中川ひろみ

人の輪（新しい地域概念）の構築事業
西平山古民家活用プロジェクト

二〇一九年度、当団体は日野市市民活動支援助成金を活用して、西平山・旭が丘地域の皆さんと一緒に子ども・子育ての居場所を創る「古民家活用プロジェクト」を行いました。

二〇一九年
古民家活用プロジェクトのスケジュール

七　月　子育て中の当団体会員とプロジェクトの内容を決定
八　月　大和田自治会・中込自治会へアンケート配布を依頼
九　月　出張プレーパーク第一回
十　月　出張プレーパーク第二回
十一月　出張プレーパーク第三回
　　古民家オープンデイ（アンケート報告会）
十二月　古民家おもちつき
一　月　AEDを設置

出張プレーパーク

古民家プロジェクトの取り組みの一つ目は「出張プレーパーク」です。

出張プレーパークでは今の子どもや子育てを取り巻く環境について、西平山・旭が丘にお住いの皆さんと考え、感じるきっかけとして、「大和田運動広場と近くの河原（浅川沿い）」・「旭が丘中央公園」・川北地区センター（平山八幡神社）で開催しました。

大和田運動広場近くの河原、旭が丘中央公園でのプレーパークは初の試みということもあり、あそび場でのデザインから決めていきました。

当日は地域の方々を中心に多くの方があそびに来て下さり、出会いのきっかけになったと感じています。

プレーパークは目の前の子どもの姿から大人たちが気付き、感じられる場でもあると再認識できた「出張プレーパーク」。近くに住んでいるのに、こんな場があることを知らなかった、という声もたくさん頂きました。

二〇二〇年度も「あそび場づくりの種まき」をする想いで、さらに地域を広げ出張プレーパークを開催していきます。

「ことな広場」（11.10）
川北地区センター
参加者：97人

正会員まめちゃんが月１回開催している「ことな広場」に合わせて開催。この日限りでなく、今後の「ことな広場」のあそびも広がるように、あそび場のデザインを行いました。

「公園でプレーパーク」（10.5）
旭が丘中央公園
参加者：181人

プレーリーダーのトトくんにも来て頂きプレーリーダー2人体制の出張プレーパークでした。みんな思い思いに楽しむ姿が印象的で、「いつもの公園が温かい空気に包まれた」という嬉しい声をいただきました。

「川のプレーパーク」（9.15）
大和田運動広場と近くの河原
参加者：103人

野外保育「まめのめ」で日々川であそんでいるからできた川のプレーパーク。お父さんが何度も川に飛び込む姿も。「ここでもっとプレーパークをやってくれたらうれしいなぁ！」という声をいただきました。

あなたの声を聞かせてください ～地域と子どもに関するアンケート～

この地域の子どもたちが「ここで育ってよかった」と思えるような取り組みを検討するため、子育て中の方だけでなく、幅広い年齢の方の声をたくさん聞かせていただきたいと西平山・旭が丘地域の皆さまにアンケートをお願いいたしました。

ほとんど回答がないかもしれない、それでもまずはアンケートを通じて知って頂くことから始めようと決めて始めた取り組みでしたが、たくさんの回答を頂きました。

アンケートの配布・回答につきましては、大和田自治会の皆さま、中込自治会の皆さま、出張プレーパーク（大和田運動広場近辺・旭が丘中央公園）にご参加いただいた近隣の皆様にご協力いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

アンケートの内容、結果については、当団体ホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

配布期間	2019年8月下旬～10月上旬
配布地域	主に日野市西平山、東平山、旭が丘地域
配布数	442通（内訳： 大和田自治会 370 / 中込自治会 14 / 出張プレーパーク 58）
有効回答数	91通（回収率 20.6%）

これからも地域の皆さんと共に…

子どもが豊かに育つためには、地域のあたたかいまなざしが欠かせません。
地域の皆さんとの出会いを大切にしながら、地域の子育てや子どもたちのことを共に考え、大人も子どももつながる輪を創り続けていきたいと思います。

AEDの設置

AEDの空白地帯であった西平山にAEDを設置いたしました。
緊急の場合はどなたでもご使用いただけるよう、門扉にステッカーを掲示しています。（帝人株式会社ボランティアサポートプログラム）

おもちつき（12・19）

西平山で二年目となる「おもちつき」。今年度は蒸し道具を貸していただいたり、準備やおもちつきにご協力いただいたりと、地域の方にたくさんお世話になりました！

古民家オープンデイ（11・24）

「地域と子どもに関するアンケート」の報告会と絵本シアター、手作りワークショップを行いました。

空き家が地域の資源となるように…

日野市では空き家が活用され地域の資源となるように、空き家所有者からの問合せに応じて活用したい方を紹介しています。西平山4丁目にある古民家（空き家）の所有者から「思い入れのある家で誰かに使ってもらえれば嬉しい」とお聞きし現地立会いしたのが平成28年7月。1年程の活用や建築士酒井氏による古民家調査などを経て、子どもへのまなざしさんにご縁をつなぐことができました。

このご縁をつないでから、はや2年経ちます。

野外保育の活動以外にも、地域住民とのおもちつき古民家オープンデイ、AED設置など地域との交流を積極的にしていただいていること、この家をにぎやかにそして大事に使ってくれていることを、所有者さんも喜んでいると思います。我々としても地域、所有者、活用する人3者が良かったと思える空き家活用を進められて嬉しく感じています。

地域の居場所として根づき、今後もより一層、活動の輪や人の輪が広がっていくことを期待しています。

空き家活用は家の片付けや修繕と、活用する人にとって大変なことです。現在では空き家活用は事例が多くあるわけでなく、進め方や所有者との関わり方が広く知れ渡っている状況ではありません。

また空き家活用で使う場所と使う期間は、未使用の駐車場や庭だけ使うことや解体までの半年間使うこともあり得て良いのですが、まだ空き空間が柔軟に利用されている状況ではありません。

日野市では「まちと空き家の学校」という制度をつくり、空き家活用の進め方や所有者との関わり方などを学び実践できるようにしたいと考えています。所有者、活用したい人、住民みなさんの意識が少しずつ変わり、空き家活用で市民が立ち寄れる場所が増えていければと考えています。

西平山4丁目のこの古民家を起点に、空き家や竹林、農地、河などの資源が活かされ、日野の原風景といえる農地のある風景の中で過ごせる里ができたらなあと想像しつつ、今後も空き家活用によるまちづくりを進めていきたいと思っています。

（日野市　まちづくり部都市計画課　櫻井芳樹さま）

同じ目的を持つ個人や他団体との協働事業 Zoomオンライン対談

日野市の地域活動の超有名人・宮崎雅也さんと当団体の事務局長・藤浪は共に日野市の地域活動をしてきた仲間です。他団体ながらお互いに信頼し合っているという二人。今回は、協働事業の内容ではなく、二人の関係性や大切にしている心持ちを知りたい、という想いから、この二人の対談を企画しました。「協働事業」って分かりにくいですよ?でも、この対談を読めば、ちょっと「地域」が身近に感じるかも!地域で活動する人たちの想いを感じてもらえればうれしいです。(聞き手・小俣彰男)

—今日はよろしくお願いします。早速ですが、市民活動を始めたきっかけや、忘れられないエピソードとかありますか?

藤浪　日野に来る前は転勤で宮崎県にいたんですけど、長女が小二の時に夫の実家の日野に引っ越してきました。

その時のクラスがちょっと大変なクラスで…担任の先生が「我が子の幸せを願うなら、我が子だけじゃなくて、その周りにいる子も幸せじゃないと。子どもたちは中三まで関係が続いていく。周りの子どもたちも幸せじゃないと、我が子の幸せはないんだよ」って言葉がすごい心に残っていて。それでひのっ子すくすくプランの市民ワークショップ参加の誘いを受けたのが、市民活動をするきっかけかな?

宮崎　日野市社会福祉協議会に入って、地域活動をすごくやっているベテランの先輩がいたんです。

定年退職後に残った方なんですけど、今ある高齢者サロンは、ほとんどその方が作ったと言ってもいいくらいで。

すごいパワフルな人で、街を歩いていると、いつも誰かに手を振っていたんですよ。そんな人に自分もなりたいな、と思いましたね。その人に「地域活動やるのに、椅子温めてちゃダメよ、座ってるんじゃないわよ!」って、言われて。でもあまりにやりすぎてるとやっぱり組織の中だと浮きますよね。まあ、やり続けると周りもあきらめてくれるんですけどね(笑)。

宮崎さんは、「街の交差点」。宮崎さんに人が寄ってくる感じ!

日常の居心地の良さを作っていく。

宮崎　藤浪さんもですけど、まなざしの皆さんに共通しているのは「居心地の良さ」なんですよね。煩わしくないというか、自然というか、ラクというか。

僕もそういう人間でありたいなって思います。嘘くさいと思われないようにしたいですし、居心地よい人間でいたい、ということをすごく意識しています。

居心地悪い人に相談なんてしないですしね。

市民活動というか「暮らし」ですよね。日常の居心地の良さを作っていくっていうことですかね。

藤浪　人間関係が辛い時ってあるじゃない?そんな時はちょっと立ち止まろうってしてるかな。相手を変えることよりも、自分を振り返るようにしています。

居心地がいい距離感って必ずあると思う。離れていた方がいいという人もいると思うから、その距離感は割と考えるようにしてます。

あとは、基本的に、人が好きなんだなっていうのはあるかな。この人、どんな人だろうって興味がある。その人の意見を聞くのが好き、考えていることを聞きたいなって思う。

—居心地がいい関係づくりで大事な点って、何なんでしょう?

宮崎　なんだろうなあ…。私の仕事場って、本当にいろんな人が来て、正直言って、相談に来る人って、みんなが困るような人がいっぱいいるんですよ、話が長いとか、すぐにキレるとか(笑)。でも、一番困っているのは本人なんですよね。

だから、そういう人にね、僕はちゃんと向きあいたいんですよね。この人が楽しく帰れたらいいなって。

居心地よくすることによって、その人が気持ちよく帰ったり。コレが大事!っていうのが、あんまりないんですけどね…その人の表情や仕草を見ることですかねえ。いかに相手に好きになってもらえるか。

人の話を聞くのってすごく面白い。

藤浪　相手のことを考えているってことですかね?

宮崎　人の話を聞くのが、すごく面白いんですよね。いろんな人が、いっぱい来てくれるじゃないですか。

この人の話を聞いているこのシチュエーションを楽しい場にして相手にもリラックスしてもらう(笑)

そうするとね、私を指名してきてくれたりするんですよ。

藤浪　ご指名率、高そうですね(笑)。

宮崎　指名で来てくれるなんてありがたいですよね。

人によっては「また来た、長くなっちゃうな」っていう態度になりがちなんですけど、実は、ちゃんと話を聞かないから、長くなっちゃうんです。

その人にちゃんと時間を割いて接した方がご本人が満足して帰られるんですよ。

今、あなたに向き合っているよ、見ているよ、関心を持っているよ、とかそういうことかもしれないですね。

あなたのために時間を取る、個室を用意する、とかそうすると、相手から「これで、帰りますから」って言ってくれます。

僕は帰って、なんて言ってないんですけど(笑)。

「地域コーディネーター」より、もっと泥臭くいたいですよね。

日野市社会福祉協議会　職員
日野青年会議所　理事長
宮崎　雅也さん

失敗しちゃうよねぇ、失敗しちゃってもいいよねぇ

藤浪　宮崎さん、すごいなあ。私は失敗に失敗を重ねてきているので…(笑)。

宮崎　僕も失敗してますよ、いっぱい。忘れちゃうだけで(笑)。ほんとに忘れちゃうんですよ。能天気だし、自分の忘れ力は半端ないです!

傷つかないっていうか、傷ついてもすぐ忘れるようにしているんですよね。傷ついている人を支える人が元気でないとね!

—ストレス、少なそうですね?

宮崎　そうですね、少ない方だと思います。性格ですね。

藤浪　私は、結構落ち込むタイプ。年を経てきて落ち着いてきたかな、と思うけど、意外と夜寝る時にあの時の声掛けはあの言葉でよかったんだろうか、とか考えちゃうんですよね。

宮崎　僕も、考えますよ(笑)。で、ま、いっか、ってすぐ思っちゃう(笑)。戻れないことを悔やまずに、気持ちに整理をつけるってことですね。

藤浪　私がま、いっかって思えるようになったのは、NPOの活動を始めて、いろんなことに鍛えられてからかな…。まいっかって思えるあなたでもいいよって、思ってくれる人が周りにいっぱいいるなって、感じられるようになってからかな。

宮崎　いいですねえ。

藤浪　失敗しちゃうよねえ、失敗しちゃってもいいよねえ、っていう雰囲気でしょうかね。

宮崎　そう、それ、いいですよね。

藤浪　それ以前は、「うまくやらなきゃいけない」っていう考えがあって。学校でもだいたいそれしか教えてくれないじゃない?職場でも、なるべく失敗しないようにってね。

宮崎　そうですよね。完璧じゃない、ちょっと抜けてる方がいいですよね。相手も楽ですし。

藤浪　抜けてるお母さんの方がいいんだって思ったのは子育てして、しばらくしてからかな。それが家族の中だけじゃなくって、人との関係の中でも、抜けてても、失敗してもいいんだって、思えてきたんです。

私たちのミッションにも子どもには失敗してもいいんだよって言っているけど、大人にも、自分にも。字面じゃなく、身にしみてわかってくると、ずいぶん気が楽になってきたっていう実感があります。

宮崎　なんか、抜けてる人同士の方が、居心地がよかったり、煩わしくなかったりってありますよね。

コロナで広がったオンライン。やさしい社会に繋がるかも。

藤浪さんって「縁の下の力持ち」いてくれると安心しますよね。

—今、コロナの影響がある中で、地域の中でやってみたいことって、ありますか?

宮崎　Zoomで障がいのある方、目が見えない方と会議をやったんです。どんな人にもチャンスがあるし、バリアフリーって言葉もよく使われますけど、人の受け入れ方とか、障がい者差別も、人と話をしたり理解をしたりすることが大事ってずーっと言われてきたことなんですけど、結局できていなくって。

コロナの影響でオンラインでのコミュニケーションが定着して、障がいについてとか、差別や人権について考えるとか、どんどんやっていけたらいいなって、思ってるんですよね。

オンラインがこれだけ広がったのは大きなヒントだったし、人と話すのって、大事だったなって、改めて気づきました。また違う世界が見えるのかな、やさしい社会になれるような気がしているんです。新たな場の作り方の可能性を感じています。

藤浪　私もオンラインの話す場をいくつかやってきて痛感しているのが、実は…今までの夜の会議が無くなって、すごく楽になっている部分があるんですよ(笑)。

宮崎　わかる!すごくわかります!(笑)。

藤浪　当団体の理事会も夜のオンラインになって、移動がないのはこんなに気持ちが軽いのかって。この流れは戻したくないなあって、個人的にも社会的にも思っています。ただ、いくつかの会合はまだオンライン会議ができていないんですよね。オンラインツールに慣れていない人たちにとってはハードルが高いんだろうなって、思うんです。そういう方にマンツーマンで教えに行きたいなって思っています。丁寧にフォローしないと、なかなか進まないかなって。市民活動って幅広い年齢層がいるから、どうしても夜の会合が多くなりますよね。

だから、みなさん、会議の時間に生活を合わせるのに苦労されていると思うんです。

宮崎　若い人も参加しやすくなりそうですよね。

藤浪　そうなの、参加できる年齢の幅が広がるかなって。うちの団体もZoom会議にしたら子育て中の人との会合ができて。今までは場所と時間を設定するのが本当に大変だったのが、夜9時半から開始で子どもを寝かしつけてから会議がやれたんです。ひろみさんは寝落ちして後から参加だったんだけど(笑)。寝過ごしても参加できたり、いろいろな年代や立場の人が参加できるいいツールだなって身をもって体感できています。この可能性は皆さんに体験してもらいたいなって思いますよね。

私はその辺におせっかい好きなおばちゃんとして居たいな。

NPO法人子どもへのまなざし
事務局長
藤浪　里佳

紙面でご紹介できたのは、実は対談のほんの一部。お二人には、もっといろいろ語って頂いていますので、その全容はWEB版でどうぞ!事務局長の人生のテーマ曲とは?

「子どもにとって本当に大切なこと」を社会全体で考え続けるために…

子どもが育つ環境づくりに社会全体で取り組むためには、互いの違いを認め合い、支え合う関係が必要です。
「子どもたちにとって本当に大切なことを第一に考える社会」を実現するために、同じ目的を持つ個人や他団体と協働します。

【2019年度 主な協働実績】
さと@hino市民フェアキックオフイベント　西川正さん「コミュニティの処方せん」/ 市民フェアブース出展「こたつでみかん&書道」
子ども子育て支援会議(小俣) / 子どもの貧困対策推進委員会公募市民委員(藤浪) / 日野市立仲田小学校学校評議員(中川)
ひの市民活動ネットワーク(今年度「ひの市民活動団体連絡会」より名称変更) / 一中地区育成会
一中地区アクションプラン「仲田の森DEたていとよこいいとプロジェクト」 / 四中地区アクションプラン
日野市環境保全課　カワセミハウス運営協議会　環境分科会 / 日野市男女平等課　男女平等推進委員会 / こどもねっと・ひの
日野市ボランティア・センター　まちづくり人プロジェクト委員会 / 多摩信用金庫若手職員4名のボランティアを受け入れ(2/15)

仲田の森蚕糸公園等清掃管理事業

ちよこさんとの日々

この春、ちよこさんが森の管理の仕事を卒業されました。共に重ねてきた日々を思い返すと感謝の気持ちでいっぱいになります。ちよこさんは、額に汗して働く姿がとてもかっこよかったです。そしていつもにこやかで、ぽかぽか陽気で、いるだけで安心させてくれるお日様のような雰囲気をまとっている人でした。本当にいろいろなことが思い出されますが、ここではちよこさんがネーミングした知る人ぞ知る「森の(管理)用語」をいくつか紹介させていただきます。

- ぶらんこ島 …… 森の小川の中州。遊び場のある日は、ロープで作ったぶらんこが登場。
- ちよこ棒 …… 森で剪定した枝、もしくは落下した枝(長いもの)。足場の悪い水路のごみを取るときや、木に引っかかったままの枯れ枝を落とすときに使う。
- やっほー …… と、子どもたちに声かけする大人をよく見かけるが、最初に使い始めたのは、ちよこさんだそうな。優しくウェルカムな感じで言うのが本家。

と、お茶目な一面もみせてくれたちよこさん、本当にありがとうございました。また遊びにきてくださいね。

森と森の管理のつれづれ日記

「誰かが自分を見てくれている」って、すごいなと思った出来事があった。

先日、森にやってきた女の子が、私に「カエルをつかまえてほしい」と言ってきた。彼女は本物のカエルを見たことがないから、すっごくこわいけど、見てみたいのだという。よくぞ、よくぞ私に言ってくれたと、大はりきりの押っ取り刀で、私は女の子と大冒険にでた。ところが、探せど探せどカエルはおらず…。しばらくして、誰かが小さなカエルを見つけてくれたのだが、なんと!逃がしてしまったあ!　ティラリ～鼻から牛乳～!である…。気持ちをあらたに次はザリガニだ!と川をあさる。石の下や穴の中に、ズボズボ突っ込んでいく私の手を、こわごわと、でもとても注意深く見ている女の子。そのまなざしが、真っすぐできれいだなあと思った。だから、絶対にとるんだ!と全身全霊で挑んだのだが、と、と、とれなかった…。私はもうダメかもしれない…と思った。そしてバイバイの時間に。ものすごいショックを隠せない大人の私に、女の子がこう言った。

「でも、がんばったよね。」

その言い方が、とてもとても優しくて、まだ年長さんなのに大人の私に寄り添ってくれている感じがして、泣きそうになりました。

ずっと見ていてくれたんだね。ありがとう。

「誰かが自分を見てくれている」ということが、こんなにも力を与えてくれるんだと、私はその女の子に教えてもらった。

「自分は一人じゃないんだ」という感覚が、気張らず当たり前に根っこにあると、日々の中で出会ういろんなしんどい気持ちも、自分でしっかりと受けとめてみようという勇気がもてるような気がした。小さいころ、はじめて見た虫や何かに、恐る恐る触ってみるような感じで。　心強くなれると思うのだ。

私が幼いわが子を連れて森に初めてきた日から、7年が経とうとしているが、この場所が、変化しつつも変わらず在ってくれることが、とてもありがたいなあと思う。私にとってはこの森も「誰かが自分を見てくれている」という安心感を与えてくれる一人のような気がしてくる。なんだか…ほっとする。そのように感じている人は、私だけではないだろう。

子どもも大人も動物も、自分は「ここ」にいていいんだよと思える場所。私もそんな場所をつくっている一人であれることが、とてもうれしく誇らしい。

ぽん

地域のあそび場を自分たちの手で…

団体設立当初より、自分たちの居場所は自分たちの手で整備しようと除草や清掃を自主的に行っていました。
その実績が認められ、2013年4月より日野市から業務委託を受け、「なかだの森蚕糸公園」の公園清掃などの作業を行っています。清掃などの作業を通して、地域の方々の「なかだの森」への想いを伺う大切な機会ともなっています。

1人でも多くの人と考え続ける

「次の時代を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと」についての情報発信事業

目の前の人に、丁寧に。

「今を生きる子どもたちにとって本当に大切なこと」をより多くの方たちと考えるために情報発信をしています。

団体のお知らせや報告だけでなく、読んでくださった皆さんの心がちょっとでも軽くなったり、一歩進むきっかけになるような広報を目指しています。

また、まなざしに関わる皆さんに、子育て真っ最中だからこそ感じること、子どもの育ちに関わっているからこそ感じることを丁寧に聞かせてもらうこと、そして、読んでくれている誰かの気持ちを想像して発信していくことを大切にしています。

【2019年度実績】
なかだの森通信（42号～44号／会員には毎号3部ずつ送付）
小学生通信（9月号／日野第一小学校、日野第四小学校、仲田小学校
日野第七小学校、東光寺小学校の全児童に配布）
メルマガ「今月のまなざし」（51号～62号／配信数　581部）
Facebook、Instagramも随時更新中
<ウェブサイト>
子どもへのまなざしホームページ
なかだの森ブログ、野外保育「まめのめ」ブログ

メルマガ「今月のまなざし」では
ご登録いただいた皆さまに
まなざしの今をお伝えしています。
（毎月第1木曜日に配信）

2019年度も、たくさんのご支援ありがとうございました！

～子どもの未来をともに考える仲間たち～

子どもを真ん中に考える社会へ。
これからも皆さんとともに…

■正会員

青柳 拓二郎さん/青柳 真実さん/浅見 義孝さん/浅見 久美子さん/安養寺 義経さん/石坂 あや子 さん/
石田 淳子さん/伊藤 さおりさん/伊藤 杏子さん/井戸川 雅子さん/岩見 千代子さん/遠藤 美和子さん/
大谷 吉美さん/織田 奈緒子さん/小野 絵理さん/小俣 実穂さん/角川 ちひろさん/笠 春樹さん/
加藤 能子さん/神部 明日香さん/菊池 幸子さん/北澤 尚子さん/近藤 千富さん/齊藤 紘子さん/
佐伯 のどかさん/佐伯 有香さん/佐々木 ふみかさん/佐々木 隆祥さん/佐々木 美紀さん/笹田 美希さん/
佐藤 美保さん/繁木 京子さん/篠原 仁美さん/渋谷 貴史さん/志水 英子さん/諏訪 和さん/
仙田 恵実さん/髙﨑 真由美さん/田部井 絵美さん/田村 美保さん/千勝 里美さん/角山 由生さん/
中島 愛子さん/中原 緑さん/西脇 大介さん/本庄 正宏さん/本庄 亜樹さん/丸山 佳代子さん/
三上 紗恵子さん/峯﨑 由美子さん/村井 知子さん/茂木 俊晋さん/森田 聡子さん/安井 清美さん/
柳澤 桂子さん/山﨑 優子さん/山田 友子さん/山本 祐貴さん/渡辺 綾子さん/渡邉 さちさん

■応援会員

粟澤 稚富美さん/池谷 裕之さん/石川 久恵さん/石附 真弓さん/伊藤 亜紀子さん/伊藤 完さん/
伊藤 利枝さん/遠藤 美津子さん/大村 悠季さん/岡 純子さん/奥村 典夫さん/
小野 美知子さん/風間 夢さん/金谷 有美さん/亀ヶ谷 菜花さん/川手 麻里さん/漢人 陽子さん/
北見 みゆきさん/久保 栄一郎さん/久保 七子さん/久保 結さん/久保田 茜さん/景谷 かおりさん/
合同会社ビヨンドさん/河野 真美さん/小林 じゅん子さん/小峰 奈津江さん/佐々木 隆志さん/
佐藤 浩子さん/佐藤 光昭さん/佐藤 順子さん/式部 紗耶香さん/鈴木 久子さん/高野 久美子さん/
田上 美穂さん/滝 理絵さん/瀧島 聡さん/瀧島 崇子さん/田中 香織さん/田中 美幸さん/
塚田 恵子さん/土屋 和子さん/徳久 ウィリアムさん/中村 祥子さん/永谷 圭子さん/馬場 明子さん/
濱 絵美子さん/林 麻子さん/原 めぐみさん/番匠 建作さん/深澤 和子さん/前波 奈緒さん/
宮原 洋一さん/三好 早穂さん/森田 武雄さん/森田 ちと゛ゑさん/諸星 智子さん/八木 祥子さん/
横山 亜紀子さん/吉田 有香さん/米澤 茂さん

■ご寄付

石坂 あや子 様/伊藤 利枝 様/遠藤 美和子 様/大竹 久代 様/岡村 めい 様/緒環 桃世 様/小野 絵里 様/小野 崇 様/
小野 美知子 様/小俣 三千代 様/片岡 久美 様/加藤 能子 様/蒲原 信恵 様/桐山 理華子 様/久保 栄一郎 様/
熊谷 斉彬 様/小橋 千帆 様/昆野 直樹 様/坂本 真喜子 様/佐々木 隆祥 様/篠原 仁美 様/柴嵜 栄 様/髙﨑 真由美 様/
瀧澤 真琳 様/塚田 恵子 様/塚本 幸治 様/土屋 健 様/土屋 實 様/角山 祐介 様/中島 直子 様/新関 奈々 様/能村 悠子 様/
林 宏道 様/深澤 和子 様/藤井 美紀 様/藤江 雅也 様/古澤 翼 様/星山 麻木 様/本庄 正宏 様/松本 貴之 様/三上 紗恵子 様/
茂木 詔男 様/森田 聡子 様/山城 隆盛 様/渡邉 かほり 様/渡邉 俊明 様

イオンリテール㈱ 様/かなざわ助産院 様/蒲原アーキテクツオフィス 様/合同会社キクダイ 様/
こどもでいさーびすにじいろ 様/有限会社文京興産 様/野外保育まめのめ保護者有志 様

※順不同　氏名公開可の方のみ
※2019年4月1日～2020年3月31日にご支援いただいた方のお名前を掲載しています。

「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」へのご協力ありがとうございました！
2019年度は、22,800円のご寄付をいただきました。

その他、なかだの森であそぼう！の募金箱や、書き損じはがき・切手でのご寄附など
2019年度もたくさんのご支援、本当にありがとうございました！

2019年度メディア掲載情報

- リライズ・ニュース　美しい時代を創る人達（6/10配信・なかだの森であそぼう！）
- 進研ゼミ高校講座　仕事で“子どものミライ”を応援する先輩たち（7/1号・中川ひろみ）
- TEAM社会起業家リレーインタビュー（8/13配信・中川ひろみ）
- チャイルド社SuperSelect（Vol51号（8/19）・野外保育「まめのめ」／写真）
- 大竹まことゴールデンラジオ　ゴールデンヒストリー「子どもと向き合う」（12/27・中川ひろみ）
- エデュカーレ　野外保育「まめのめ」の冬遊びはたき火を囲んで（No.95・野外保育「まめのめ」）

2019年度　決算報告

NPO全体の収支

収入の部

項　目	2018年度 金　額（円）	2019年度 金　額（円）
自主事業収益	19,780,362	20,245,902
委託料（公園管理）	1,269,000	1,314,000
寄附金	590,021	892,571
会費	555,000	562,000
補助金・助成金	937,164	543,000
その他	2,100	4,226
計	**23,133,647**	**23,561,699**

支出の部

項　目	2018年度 金　額（円）	2019年度 金　額（円）
人件費	15,586,149	16,741,589
その他の経費	6,187,652	5,742,119
消費税	799,400	922,600
法人税等	70,000	70,000
計	**22,643,201**	**23,476,308**
収支差額	**490,446**	**85,391**

2019年度を振り返って

年度末のまとめの時期が緊急事態宣言と重なり、事務局は在宅ワーク中心の体制となる中で、何とか今年も無事に決算を終えることができました。

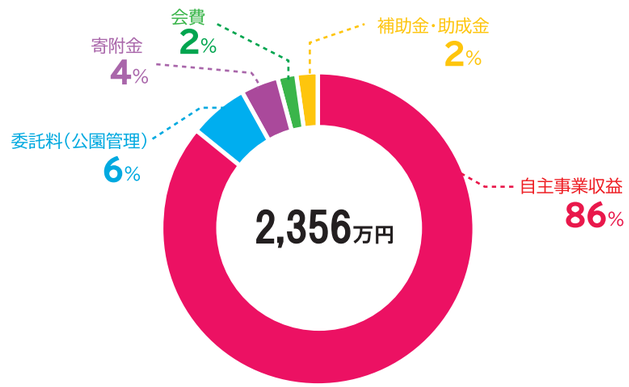
全体的には、昨年度よりも人件費と消費税が上がり支出全体の金額は増えましたが、野外保育「まめのめ」新入園児の獲得や「あそべ！子どもたち事業」の定着、また継続していただいている会費や寄付金収入により自主財源が安定しており今年度も黒字となりました。

プレーパーク事業以外は収支のバランスがとれているのが、当団体の大きな特徴です。

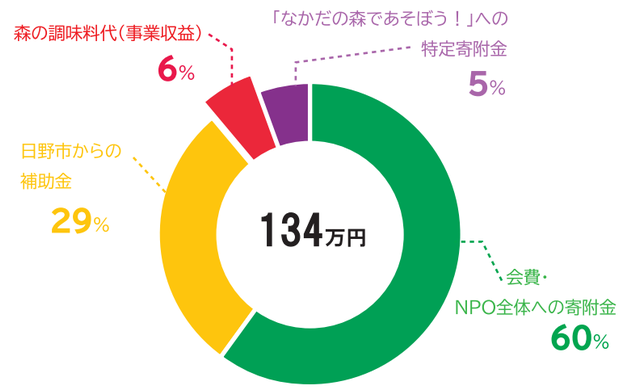
これは、補助金や委託料に頼らない運営を目指してきた結果といえます。

プレーパーク事業は、「子どもが主人公の居場所を創る」という活動趣旨から、参加費をいただいていません。

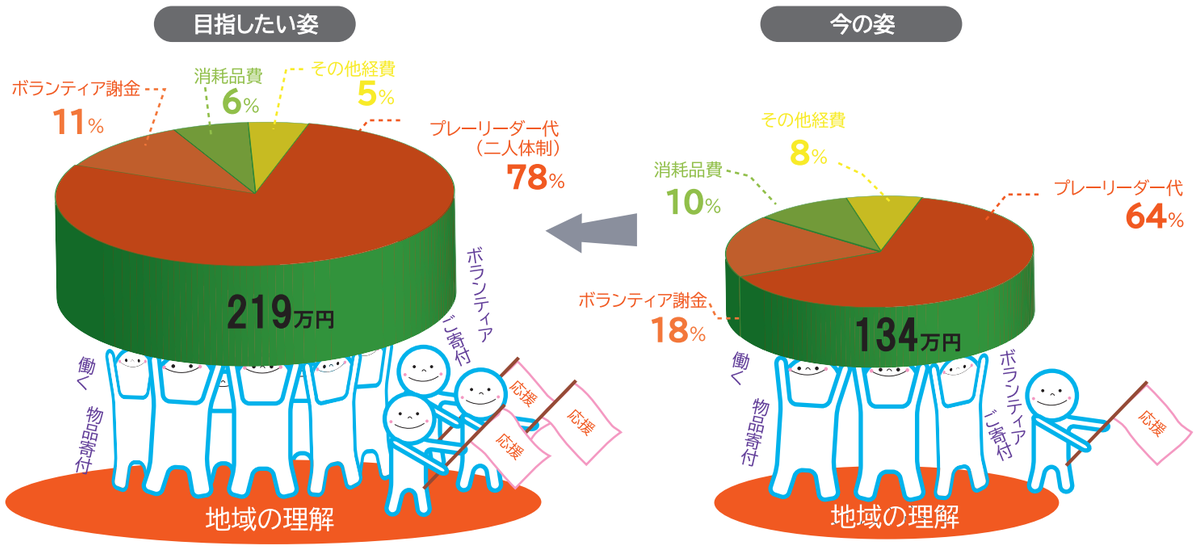
事業収益を得るための工夫は、参加者みなさんが食べる「なかだ鍋」の調味料代として、大人ひとり50円をいただいております。しかし、この収入はほんのわずかなもので、プレーパーク事業を支えているのは、支援してくださる皆さんの会費や寄付金です。心より感謝申し上げます。



NPO全体の収入の内訳



なかだの森であそぼう！活動資金の内訳



「子どもが主人公の居場所」をこれからも創り続けるために…あなたの力が必要です！

二〇二〇年四月以降のなかだの森は、休校対策「ほっとスペースなかだの森」として小学生や中高生が集う場となりました。従来の遊び場としての存在意義に加えて思春期の子どもたちを受け容れる場としてますますスタッフの専門性が問われます。

これからの子どもの居場所を考えたとき、プレーリーダーの複数体制を真剣に考える時期に来ていると感じました。

日野市は今年二月「財政非常事態宣言」を行いました。計画中の公共事業を停止し、既存事業の経費見直しによって財政を立て直す予定とのこと。このような状況では、行政の財政的な支援を求めることよりも、ますます自主財源による運営を行うことが重要となります。

そんな中でプレーリーダーを増員するためには、幅広い市民の皆さんに、今まで以上のご支援をお願いすることが必要不可欠です。理事会では、さらなるご支援を募るためのファンドレイジングについて検討を重ねてきました。2020年度中には具体的な寄付の仕組みをご提示し、新たな支援を獲得する努力をしていきたいと思います。

私たちが必要とする支援は、資金だけではありません。物品や食材の寄付、スタッフのお手伝いなども大きな支えとなります。

先日のなかだの森では、「元気な子どもたちがいて、素敵な活動ですね」とお散歩途中の方から声をかけていただきました。こうした何気ない一言も、私たちの原動力のひとつです。

コロナ禍の中、子どもたちの居場所は制限され、自分の居心地のいい場所で過ごす時間が奪われています。

感染予防対策をしながらの居場所づくりは、今までの活動を見つめる機会となりました。これからどんな世の中になろうと、今必要とされる居場所を創り続けたい。そんな想いを改めてかみしめています。

事務局長　藤浪里佳

▶二〇一九年度は皆さまからご支援いただき、会員・なかだの森常連の皆さんのお力を借りて、倉庫横に薪置き場を設置しました！これで雨が続く日も薪が濡れません。

「ちがい」があるから豊かなんだ！

活動を継続しているうちに、当団体に関わってくださる大人の人数も増えてきました。
また、仕事として関わっている職員の人数も18人（事務局スタッフ、保育スタッフ、公園管理スタッフなど／3月末現在）に増えました。

同じ目的に向かっていても、それぞれ仕事内容が異なり、普段は話すこともなかなかできないのが現状です。そこで、同じ目的のために力を合わせる仲間だからこそお互いの関係性を深める時間にしたいと「まなざしスタッフミーティング」を行い、今、子どもたちを取り巻く環境、そして、子どもへのまなざしで働くうえでどうありたいかをお互いに聴き合う時間を持ちました。
その時間に出たスタッフの言葉をここで少しだけご紹介します。

〇親の安心＝子どもの閉塞感になってる
〇子どものあそぶ時間がなくなった
〇私はひとりじゃない。仲間がいる安心感。
〇子どものストライクに来てるかな。それって大人の自己満足では？
〇一緒に創るを楽しめる人が少ないかも…
〇多様性をおもしろがり合うこと
〇ドキドキしながら道草を面白がりたい
〇迷ったら目の前の子どもに聞いてみる
〇正しい親を頑張らなくちゃ。
〇いい×悪いという二元的な考え方から自由になるにはどうしたらいいんだろう
〇カテゴライズされた人が交わる場がないよね
〇「居場所」がブランド化されてほしくない
〇自分のことを気にしてくれる人がいるだけでいい
〇誰と話したいかも自分で決めることができる「居場所」
〇うまくやれなかったらラッキーと思う
〇ごちゃまぜの自分もオッケーと認める

**子どもへのまなざしは、応援してくださる方、共感してくださる方一人ひとりの想いで作られています。
共感して下さる一人ひとりの想いを大切に「子どもを真ん中に考える世の中」を目指して
これからも活動してまいります。応援よろしくお願いいたします。**

■2019年度 職員

正規職員	伊藤完／大村悠季（育休中）／亀ヶ谷菜花
保育スタッフ	伊藤亜紀子／小野絵里／峯崎由美子／村井知子 篠原仁美／山本祐貴
送迎ドライバー	田極薫
公園管理スタッフ	岩見千代子（～2020年3月31日）／三上紗恵子 茂木暖子／篠原仁美（保育と兼任）
事務局スタッフ	松永由希子／仙田恵実／柳澤桂子／濱絵美子 内藤亜希／久保七子

■ボランティア
鈴木忠宗／黒岩三男／鈴木久子／八木祥子

■理事
理事長　中川ひろみ
理事 兼 事務局長　藤浪里佳
理事　中野錦享／松永由希子／小俣彰男／塚本幸治
監事　内藤勘太郎（～2020年5月31日）
　　本庄正宏（2020年6月1日～）